

## 参考資料

## レコード調整の歴史

NACSIS-CAT/ILL ニュースレター 1号 (2000/08/10) -

[オンライン・システム・ニュースレター No.1\(1986/11/11\)~No.70\(2000/03/17\) より抜粋](#)

NACSIS-CAT/ILL ニュースレター

### 10号 (2005/3/25)

#### 平成15年度NACSIS-CAT/ILL業務分析表の送付について

目録所在情報サービスは、サービス開始以来、関係各方面の御協力を得て、平成17年2月末現在で参加機関1,036機関、図書書誌レコード約750万件、図書所蔵レコード約7,600万件、雑誌書誌レコード約27万件、雑誌所蔵レコード件数は約400万件という、国内最大規模の総合目録データベースを形成し、年間約100万件的ILL業務が運用されています。

その一方で、各レコードの品質及び各参加館の相互協力の運用においては、必ずしも良好とはいえない状況が見受けられ、目録所在情報サービスの品質管理が、大きな課題となっております。

この状況をふまえて、「書誌ユーティリティ課題検討プロジェクト」の一環として、参加大学を対象に、平成15年度のNACSIS-CAT/ILLのデータをもとに統計作業を行いました。その結果を「NACSIS-CAT/ILL業務分析表」にまとめ、平成17年2月14日付けで国・公・私立の各大学図書館(機関単位)宛に送付しました。

#### 書誌ユーティリティ課題検討プロジェクトの進捗状況について

平成16年10月～12月 国公立大学のNACSIS-CAT/ILL業務状況の分析

平成17年1月～2月 訪問調査(全国15大学)CAT/ILLの業務実態について担当者から聞き取り調査を実施

平成17年2月14日「NACSIS-CAT/ILL業務分析表」の送付

平成17年3月7日 第2回書誌ユーティリティ課題検討プロジェクト検討会議開催

### 15号 (2004/11/22)

#### 書誌ユーティリティ課題検討プロジェクトの発足

### 14号 (2004/08/23)

#### NACSIS-CAT/ILL Q&A DB 利用方法の変更のお知らせ

NACSIS-CAT/ILLQ&ADBの利用方法の一部を変更することとしたのでお知らせします。下記の3点について御留意の上、御活用ください。

URL:<http://cattools.nii.ac.jp/qanda/>

(1) 重複報告・図書書誌修正報告受付画面の新設

重複書誌報告及び図書書誌の修正報告専用の受付画面を新設しました。重複書誌を発見した場合、図書書誌の修正を行い参加館への連絡が必要な場合は、それぞれの専用画面を御利用ください。

(2) 質問・報告の受付画面での入力項目の変更

「ファイル」・「件名」・「フィールド」の各項目を追加しました。また、従来機関名を入力することとしていましたが、「FA番号」のみを入力するだけでよくなりました。

(3) 文字コードの変更

多言語資料に関する質問等に対応するため、使用する文字コードを日本語EUCからUTF-8に変更しました。そのため当研究所から送信されるメールの文字コードもUTF-8に変更されています。恐れ入りますが、UTF-8でエンコーディングされたメールの受信に対応したメールソフトを御利用いただけますようお願いいたします。

### 13号(2003/12/19)

#### 図書所蔵レコード7,000万件！

### 11号 (2003/7/11)

#### NACSIS - CAT マニュアル全文検索のリニューアル

#### 平成14年度外注化アンケート調査報告

### 10号(2003/3/17)

#### NACSIS - CAT/ILL ホームページリニューアル

### 9号 (2002/12/18)

#### 電子メールによるレコード調整連絡ツールの公開

#### 平成14年度レコード調整連絡 - その後の状況

\*本誌7号でお知らせしたとおり、平成14年度よりNIIから各参加館へのレコード調整の連絡方法を、従来の本誌巻末への一括掲載から、個別送付へと変更しました。

この結果、各参加館へ直接、より早く確実にレコード調整の連絡を行えるようになりましたが、まだ必要な作業を行っていない参加館が多数あります。

平成14年度第1回(平成14年6月28日発送)及び第2回レコード調整(平成14年9月20日発送)で連絡しました「所蔵付替依頼」のその後の状況は次のとおりです。

### 7号 (2002/07/01)

#### レコード調整の連絡方法の変更

従来、書誌レコードの修正や重複レコードの統合に伴う所蔵レコードの付替等、参加館へのレコード調整の連絡は、本誌巻末の付録として一括掲載していましたが、より早く確実に各参

加館の担当の方々へ連絡するために、今後は、2～3か月に1度、各参加館(FA番号単位)宛に直接、該当リストを郵送することとしました。

本誌6号以後に発生したレコード調整については、平成14年6月末に既に発送していますので、本号からレコード調整の記事は掲載していません。次回の発送は、平成14年9月頃を予定しています。

### 6号 (2002/03/29)

#### 電子メールによるレコード調整及び参加館Webファイルへのメールアドレスの登録

##### 1.概要

目録システム利用図書館間のレコード調整を効率的にするため、従来のFAX等による連絡方法に加えて、電子メールによる連絡を活用できるようにします。そのために、各図書館の担当者の電子メールアドレスを、参加館WebレコードのE-mailフィールドに記録することとします。

また、本研究所で書誌レコード作成館もしくは所蔵館のメールアドレスを簡便に調べるためのツールを用意しますので、これを使ってメールでの連絡を行ってください。

##### 2.電子メールアドレスの記録

次の通り、参加館WebレコードのE-mailフィールド(最大繰返し数:5)に記録してください。

(1)担当毎に異なる場合

(図書目録担当) BOOK:book@lib.nii.ac.jp

(雑誌目録担当) SERIAL:serial@lib.nii.ac.jp

(ILL担当) ILL:ill@lib.nii.ac.jp

(2)各担当で同じ場合

BOOK:SERIAL:mokuroku@lib.nii.ac.jp

##### 3.目録所在情報サービス連絡ツール

本研究所のホームページから利用できる連絡ツールは、以下のようなものです。

(1) 目録所在情報サービスのホームページから、Webブラウザで利用できる。

(2) 目録システムの利用者番号により、利用者認証を行う。

(3) CATPにより、書誌レコードIDで検索し、書誌レコードを取得・表示する。

(4) 同時に、レコード作成機関情報(メールアドレスを含む)を取得・表示する。

(5) 指示された場合、所蔵レコードを有する機関情報(メールアドレスを含む)を取得・一覧表示する。

(6) メール送付は、各端末で利用している各種メーラーを使う。

### 5号 (2001.12.20)

#### 参加館WebレコードへのWebcat表示情報の入力

##### 1.経緯

Webcatの参加館詳細情報に、一般利用者に対する利用上の注意事項や図書館のURL等を表示するため、平成12年12月1日付け文書(国研研コ第76号)で各機関に参加館WebレコードへのURL情報等の入力を依頼し、入力していただいております。

しかし、システム面での制約から、英小文字の登録が新CAT/ILLシステムからしが行えず、旧CAT/ILLシステム利用館の参加館Webレコードの修正等は、暫定的にNIIで行ってまいりました。この程システムの対応が完了し、平成13年11月30日から旧CAT/ILLシステムでの小文字入力が可能になりましたので、今後は各館で行って頂きますようお願いいたします。

##### 2.参加館Webレコードへの入力方法

(1)入力方法

POLICYフィールドに導入句「WEBPOLICY:」を付けると、導入句より後のデータがWebcatの参加館詳細情報に表示されます。

URLを記録する場合は、POLICYフィールドに導入句「WEBPOLICY:URL:」を付けると、導入句より後の情報が、Webcatでリンク表示されます。

(2)入力内容

Webcatは広く一般の方が利用しているので、学外者等を想定して記録してください。具体的な入力内容については、下の例を参照してください。

##### 3.入力例

項目 フィールド 入力例

英文名称 POLICY WEBPOLICY:National Institute of Informatics (NII)

英文住所 POLICY WEBPOLICY:2-1-2.Hitotsubashi,Chiyoda-ku,Tokyo 101-8430

URL POLICY WEBPOLICY:URL:http://www.nii.ac.jp/index-j.html (website)

URL POLICY WEBPOLICY:URL:http://www.nii.ac.jp/map/hitotsubashi-j.html (map)

来館利用担当 POLICY WEBPOLICY:来館利用担当\_閲覧係

電話番号 POLICY WEBPOLICY:電話番号-03-4212-2140

受付時間 POLICY WEBPOLICY:受付時間:9:00-17:00

注意事項 POLICY WEBPOLICY:注意事項\_資料の所在等、事前確認をしてください

持参書類 POLICY WEBPOLICY:持参書類\_身分証明書

複写時間 POLICY WEBPOLICY:複写時間:9:00-16:00

館外貸出 POLICY WEBPOLICY:館外貸出:不可

制限事項 POLICY WEBPOLICY:制限事項\_貴重図書には閲覧を許可しないものがある

休館日 POLICY WEBPOLICY:休館日:日曜日、国民の祝日、年末年始

注) はスペースを表す。

オンライン・システムニュースレター 抜刷集

## 2.8.10 書誌調整の記事の見方 (No.55 p.12) (1996/06/30)

新規の参加館の中には、ニュースレターに掲載されている書誌調整のページに対する誤解が少なくありませんので、あらためてその役割と見方を解説いたします。

役割

総合目録データベース中にある重複書誌の統合にあたって、機械的に統合できないものについて掲載し、各参加館に所蔵レコードの付替等の処理を連絡するためのものです。また、重複以外にも、修正指針に従って修正されたレコードについて、所蔵館が多数の場合には記事中でお知らせしています。ほぼ毎号掲載されますので、参加館の担当の方は自館の所蔵レコードが付替の対象になっていないか、所蔵を登録している書誌に修正がなかったかを確認する必要があります。連絡があった場合は、速やかに処理をお願いします。

表の見方

まず、参加組織毎(FA番号毎)に、調整番号がまとめてありますので、該当する項目をあとのページから探します。

例) 参加組織番号が FA001277 の図書館の場合

FA 番号	書誌調整番号					
FA001277	55-01.55-03.55-58.55-76.55-77					
* まず調整番号 55-01 について、書誌調整番号が 55-01 の項目を探して内容を確認する。他の番号も同様。						
書誌調整	所蔵削除例	所蔵付替先	タイトル	事由	巻次	部編等
番号	書誌 ID	書誌 ID				
55-01	BN0186132X	BN14076469	日本文学研究必携	1刷		

上記の例では、BN0186132X に所蔵を登録している所蔵館のうち、「1刷」を所蔵している館が BN14076469 に所蔵を付替える必要があります。自館の所蔵が別の刷のものならば処理は必要ありません。「1刷」の箇所は、「第1巻」、「pkk」等の指示の場合もあります。その場合も、付替えの処理が必要なのは、「第1巻」、「pkk」を所蔵している参加館のみです。「所蔵削除例書誌」に所蔵を登録している参加館すべてを連絡の対象としていますが、指示された「巻次・部編等」以外を所蔵している場合は処理の必要はありません。

## 2.8.9 書誌修正報告の扱いについて (No.45 p6) (1994/06/10)

今までのニュースレターでは毎号、書誌調整の一部として、修正のあった書誌について「書誌修正連絡(所蔵付替不要)」として載せてきました。平成 5 年 12 月にコーディングマニュアルの修正指針が刊行されたため、今号より、その方針にしたがって掲載するかどうかを判断することとしました。このため、各参加組織から修正の報告があっても、掲載しないものもありますのでご了承ください。平成 6 年 6 月より開始

## 2.8.1 図書館レコード修正指針について (No.42 p2) (1989/12/24)

図書館レコード修正指針については、ニュースレター No.40 に基本的な指針を掲載しましたが、その後「目録情報の基準運用細則」作成検討部会において、運用指針および各フィールドレベルでの個々の修正項目について数回にわたる検討を行ってきました。

その結果作成された「図書館レコード修正指針」を、「平成 5 年度第 2 回総合目録小委員会で審議し、了承されました。

そこで、コーディングマニュアルとして刊行することになりました。各参加館はこの規定をもとに、今後修正作業を行うようお願いいたします。既に刊行済

## ニュースレター No.40 (1989/8/27)

### 図書館レコード修正指針について(英)

## ニュースレター No.39 (1989/6/24)

### 図書館所蔵レコード件数 1,000 万件突破

平成 5 年 4 月 27 日(火)13 時 21 分に目録所在情報サービスの図書館の所蔵レコード件数が 1,000 万件を突破しました。

## ニュースレター No.38 (1989/3/26)

### 書誌調整についてお願いと注意

修正や登録に関わる事項

ニュースレター上で重ねて注意しておりますが、未だに自館の都合で書誌レコード中のデータを削除している例が見られます。特に分類・件名については、頻繁にセンター宛に苦情や問い合わせが寄せられます。データの削除はそのデータが誤りである場合以外、原則行わないようにお願いします。最近では、UTL フィールドの削除に対する苦情が寄せられました。UTL フィールドは現在、聖典と無著者名古典の他、音楽作品名が記述可能となっておりますが、このような音楽作品名に対しての UTL フィールドが削除されているようです。不用意な削除を行わないよう御注意下さい。

書誌調整の依頼も増加しておりますが、一方、自館の資料を元に、書誌を勝手に修正しているケースも多ようです。過度の調整連絡や協議・報告は逆に事務を増やすことになり、目録作成作業に支障をきたす可能性もあります。TR や PTBL フィールドの修正をそれぞれ勝手に行うことは、混乱を招くばかりです。このような書誌の同意に関わるフィールドの修正や追加・削除は必ず作成館、もしくはセンターへ連絡してくださるようお願いいたします。

書誌調整報告に際してのお願い 現在、センターには毎日多くの重複書誌・典拠レコード報告が寄せられています。これ自体は大変ありがたいことであり、感謝しております。しかし、わずかではありますが、情報源等の資料が無いため、本当に重複であるか否か判断に悩む報告も寄せられます。報告に際しては、情報源等の資料を出来れば添付してくださるようお願いいたします。

## 平成 4 年度総合目録委員会・小委員会の審議結果

平成 4 年度 第 2 回総合目録委員会の審議内容

日 時：平成 5 年 2 月 17 日(水) 14:00 - 16:00

目録システムにおける共有レコードの修正指針について

図書館レコード及び典拠レコードに関わる修正時の指針について審議し、了承された。修正指針は、フィールドごとに「発見館が慎重に修正しうるもの」「作成館との協議が必要なも

の」「事後の連絡が必要なものを一覧表にしたものと、修正処理の流れ図、連絡等の要件、の 3 点で構成されている。

詳細については次号以降に掲載する予定である。

## ニュースレター No. 36 (1992/10/20)

### レコード登録時の注意事項

これまでも、ニュースレター上で何度かお願いしてきましたが、データベースの品質管理が相変わらず大きな課題となっております。不適当なレコード作成を防ぐため利用者の方々にはいまいちど以下の注意事項の確認をお願いいたします。

(1) 検索に関する注意点

ポイント 1

コード類(ISBN 等)は、NC のレコード上に記載されているとは限らないので、コード類で検索して参照ファイルヒット、あるいはノーヒットの場合は必ず、他のキーで検索しなおすことが必要です。以下の例を参照してください。

ポイント 2

当日登録分のレコードについては、出版社、出版社等の検索キーが作成されていませんので、最初の検索キーにこれらのキーを選択しますと、当日登録分のレコードが検索されません。これらのキーは、いったんヒットレコードの集合を作ったあと、しほりこみをする場合に使ってください。

ポイント 3

一度の検索で、親書誌のタイトルと子書誌のタイトルを同時にキーとして入力しますと参照ファイルにヒットしません(子書誌レコードの PTBL からは 検索用のキーは作成されていません)。片方づつの検索をお願いします。

ポイント 4

レコード上の記載、あるいは検索キーのつづりが誤っていた場合はヒットしません。洋書等の誤りやすいタイトルは、前方一致検索だと効率が上がります。和書の場合は使用漢字の字体の相違がこれに相当します。NC に該当コードがヒットしない場合には、ヨミ、漢字(表記形)、各々の前方一致等、当該書誌について最もゆれが少ないと思われる検索キーを採用してください。

ポイント 5

リンク先のレコードを探しに行(場合では特に、LINKTO PARENT に 御注意下さい。システムの方で自動的に AKEY も作成し、検索の条件としては、タイトルキーと AKEY のかかわせになっています。NC にヒットしなかった場合は、必ず BROWSE で検索画面に戻り、AKEY 削除、タイトルキーの変更など、通常の書誌検索の要領で必ず再検索をお願いします。

(2) 書誌の同意、採用に関わる注意点

ポイント 6

「目録情報の基準」に拠りますが、他にこのニュースレター上で実作業中にでてくる問題点、疑問等にお答えしています。最近増加している「刷り」毎の書誌事項の相違による新規作成は、版の相違と見做せるほどの改訂事実が確認出来た場合にはあり得ますが、そうでない場合には重複書誌と見做されますので、御注意下さい。刷りの相違で新規にレコードを作成する場合は、改訂の内容を注記する。ED に刷りの情報を記述するなどして前の刷)とのちがいをレコード上明確にしておくことが必要です。

ポイント 7

「目録情報の基準」改訂版、あるいはニュースレターでお知らせしているような新たな決定事項は、原則的にそれらが発行された後、新規作成されるレコードに適用されるものです。過去に登録が済んでいるものに関して、遡って修正することは現在も継続している書誌等を除いては行っておりません。殊に修正の結果階層の取付が異なってしまうような書誌については、後の調整に時間がかかることがあり、他の接続館に迷惑をかけることがありますので御注意下さい。ただし、所蔵館間で合意のあったものについてはこの限りではありません。

(3) 流用入力時の注意点

ポイント 8

参照レコードを流用して総合目録に登録する場合には、必ず手元の資料に基づいて修正してから登録することになっていますが、最近、何ら修正することなくそのまま登録している例が見受けられます。特に、書誌階層を「目録情報の基準」に合わせていない例や、CIP データに対してのデータの追加や修正が行われていない例が目立ちます。このようなデータは後で利用する際、書誌の同意が困難になる等、非常に不便ですので注意してください。

(4) コマンドの操作に関する注意事項

ポイント 9

依然として、EDIT と COPY の混同によると推定される重複レコードが目立ちます。この誤解は既成書誌の全く異なる書誌への書き換えや、単純な重複レコードの作成に即つながりますので、各機関の目録担当者はテキスト、マニュアル等で各コマンドの再確認をお願いします。

(5) 著者名典拠レコードの作成時における注意点

ポイント 10

現在登録されている典拠レコードの中には、HDNG に採用した著者名の表記やヨミ等の根拠となった情報源が記入されていないものが見受けられます。これらはリンク形成の際の同意を難しくしている一因となっています。典拠コントロールの効果を上げるために、新規作成時には必ずレコードのデータ内容が何に拠ったのかを NOTE に注記するようにしてください。

(6) その他の注意事項

ポイント 11

不要なレコードを作成してしまった場合は、その場で所蔵レコードを WED し、書誌レコードを「削除予定レコード」に書き換えるようお願いいたします。レコードが登録されるのは、新たに CREATE した場合は REGISTER コマンドを発行した瞬間ですので、書誌レコードのみの場合でもお忘れのないよう御注意下さい。

ポイント 12

ニュースレター No.21 p.12「分類・件名等の取り扱い」において、既にあるデータを各大字割の都合で削除してしまうことは慎んで下さい、と注意を喚起しました。このほか、流用入力を行際にも参照レコード上にある、総合目録上でも利用可能なデータを削除してしまうことのないようご注意ください。

#### 7) 重複レコードの処理状況

平成4年4月1日から平成4年9月24日までの、重複レコードの統合処理及び削除予定レコードの削除処理は以下の通りです。

#### ニュースレター No.35 (1992/8/10)

##### 総合目録委員会・総合目録小委員会の開催

総合目録小委員会には、1) ILL システム開発について、2) 目録システムにおける共有レコードの修正指針について、3) 「目録情報の基準、適用上の諸問題について、の3点の審議を付託することになりました。

#### ニュースレター No.34 (1992/8/10)

##### 平成4年度目録システムの機能向上予定項目

当センターでは、平成4年度の目録システムの機能向上を図るため、以下の事項についてシステムの改訂を実施する予定です。(実施は平成4年8月3日から予定しています。)

#### 1. 書誌データの作成機関・最新修正機関の参加組織コードの表示

目録システムが現在のような高いヒット率を有し、所蔵データが週に4~5万件も登録されるのは、書誌の作成及び修正に積極的に携わっていただいている各参加組織の尽力に負うところ大であると言えます。しかし、一方で当センターに書誌調整を依頼される件数も年々増加してきています。そこで今回の改訂では作成者としての寄与を明示すること及び各参加組織間で書誌調整が円滑に実施されることを目的として、和洋図書館の書誌データに作成機関・最新修正機関の参加組織コードを表示することとします。

#### ニュースレター No.31 (1991/10/18)

##### 重複書誌に対する注記

センターに重複レコードの報告があると、以下の2つのうち、いずれかの方法により、重複統合の処理を行います。

重複レコード処理プログラムにより、リンクの付替(所蔵、書誌)、重複レコードの削除処理を行う。

上記のプログラムで処理できないものは、電話、FAX、ニュースレター等で所蔵の付替をセンターから各参加組織に依頼する。所蔵がなくなり次第、重複レコードを削除予定レコードにする。

このうち2の場合、所蔵付替が完了するまでの間、目録担当者がどちらのレコードを採用するか判断がつかず、削除対象となっているレコードに所蔵/書誌をリンクしてしまう可能性があります。

上記のような事態を回避するため、センターでは、削除対象レコードであることを示す注記を次のように記録することとします。この注記があるレコードは、リンクがなくなり次第削除予定レコードになるので、書誌/所蔵のリンク形成を行わないでください。

なお、この注記は当分の間、センターのみが書き込むこととします。各参加組織の目録担当者は書き込まないでください。

これらの書誌レコードに関する問い合わせは、NOTEフィールドに記録されたセンター管理番号と書誌レコードIDにてお願いします。

#### 注記の形式

1 番最初の NOTEフィールドに記録する

NOTE: @@@999999999.YYMMDD ==> BN999999999

センター管理番号 入力日付 付替先書誌ID

(西暦年の下2桁+6桁の一連番号)

#### ニュースレター No.29 (1991/8/10)

##### 目録・所在情報データベース500万件突破

NACSIS-CATの図書所蔵レコード件数が、5月22日(水)に500万件を突破しました。最初のレコード(昭和60年7月)から5年10ヵ月目に達成しました。

#### ニュースレター No.26 (1990/11/9)

##### 重複書誌報告の一部電算化

これまで、重複書誌を発見した場合、「目録情報に関する質問書/回答書」に記入の上重複と思われるレコードの画面コピーとその情報源のコピーを添えて報告することになっていました。今後は、資料種別(GMD)、標題・責任表示(TR)、版表示(ED)、出版事項(PUB)、形態に関する事項(PHYS)等が全く同じで、明らかに重複と思われる書誌レコードに限り、「重複書誌調整依頼状」(次ページ)のみで報告できます。

書誌単位のとり方が異なる場合の調整依頼や、単純に重複と断定できないケースについては、これまでどおり、「目録情報に関する質問書/回答書」に記入の上レコードの画面コピーと情報源のコピーを添えて報告してください。

#### データベースの品質管理状況

平成2年7月10日から平成2年10月25日までの、重複データの統合処理及び削除予定レコードの削除処理は以下の通りです。

#### 重複処理

各接続機関から報告された重複レコードは、報告回数にして166回でした。これらについてセンター側でチェックし、数回に分けて統合作業を行いました。この統合作業において、削除側にリンクしている所蔵レコードを生き残り側に付替え、削除側の書誌レコードをデータベースより削除した後、関係各機関に報告しました。

#### 削除予定レコードの削除処理

接続館側の作業中に発生した削除予定レコードを、データベースから削除する作業も数回に分けて実施しました。

#### 処理件数 (平成2年10月25日現在)

(処理件数表省略)

#### ニュースレター No.25 (1990/8/31)

##### データベースの品質管理状況

平成2年3月20日から平成2年7月9日までの、重複データの統合処理及び削除予定レコードの削除処理は以下の通りです。

#### 重複処理

各接続機関から報告された重複レコードは、報告回数にして135回でした。これらについてセンター側でチェックし、数回に分けて統合作業を行いました。

この統合作業において、削除側にリンクしているレコードを生き残り側に付け替え、削除側のレコードをデータベースより削除した後、関係各機関に報告しました。

#### 削除予定レコードの削除処理

接続館側の作業中に発生した削除予定レコードを、データベースから削除する作業も数回に分けて実施しました。

(処理件数表省略)

処理件数 (平成2年7月9日現在)

#### ニュースレター No.24 (1990/5/31)

##### 書誌調整に伴う所蔵レコードの付替えのお願い

次の書誌については、書誌作成の単位が基準と異なっていますので、所蔵レコードをリンクしている参加館は、所蔵の付替えをお願いします。

#### ニュースレター No.23 (1990/3/31)

##### 書誌調整に伴う所蔵レコードの付替えのお願い (ここらで増?)

以下の書誌についてレコード作成単位の整備並びに所蔵機関への連絡調整を依頼するとの「目録情報に関する質問書」がセンターに届けられました。書誌については依頼機関と調整して修正を行いましたので、当該書誌レコードに所蔵をリンクしている参加機関は、所蔵レコードの付替え処理をお願いします。

#### 1) BN00704290 「核後の化学」:1.2.3;

各巻に固有の標題があるため、次の3つの書誌に所蔵を振り分けてください。なお、この書誌は中位の書誌になりますので、削除予定レコードとします。

- 1 BN03291583
- 2 BN04221980
- 3 BN03291255

#### 2) BN01844794 「分間解剖学アトラス」:1.2.3;

各巻に固有の標題があるため、次の3つの書誌に所蔵を振り分けてください。なお、この書誌は親書誌になります。

- 1 BN01844502
- 2 BN01845028
- 3 BN01845254

(略)

#### 9) BN00571018 「変形文法と日本語」:上下;

各巻に固有の標題があるため、このBN00571018を上上の書誌とし、下の方をBN04415364として新たに作成しましたので、下を所蔵している参加機関は付替えをお願いします。なお、今回の修正でこの書誌は2階層となりました。ちなみに、親書誌のIDはBN04415342となりました。

以下の書誌については、書誌作成単位が変更になったことから、TRとPTBLのデータの修正が発生した分です。特に所蔵レコードの付替え作業は必要ありませんが、ローカ ルシステムとの整合性をとられる場合には、ご注意ください。

#### 10) BN00678328 「基本算法:基礎概念」

BN00875216 「基本算法:情報構造」

BN00642579 「準数値算法:乱数」

BN00642014 「準数値算法:算術演算」

上記4書誌は、「The art of computer programming」を親書誌としていますが、それぞれ標題関連情報とされている部分を本標題とする3階層の書誌と見做しますので、TRを「基礎概念」情報構造、等に修正しました。

#### 11) BN03314215 「江戸東京 街の履歴書:番町・九段 麹町あたり」;

この書誌は、新たに「江戸東京 街の履歴書:浅草・上野 谷中あたり」というシリーズの続編が出版されたことに伴い、TRが「番町・九段 麹町あたり」、PTBLが「江戸東京 街の履歴書」となる2階層の書誌に修正されました。

#### 12) BN02922634 「我が国の文教施策:昭和63年度」

BN04135095 「我が国の文教施策:平成元年度」

上記2書誌はそれぞれに固有の標題を持っているため、それらをTRとし、親書誌をBN04208472「我が国の文教施策」とする2階層の書誌に修正しました。

なお、これによって生じたBN04135095とBN04207301の重複はセンターで処理します。

#### 13) BN03714188 「核証:エネルギーと地球環境」;

BN03714202 「検証」エネルギーと地球異変データ集、

上記 2 書誌はそれぞれに固有の標題をもっているため、それらを TR とし、「検証」エネルギーと地球異変、等は中位の書誌として PTBL フィールドの番号等の位置に移動する修正を行いました。

#### ニュースレター No.23 (1990/3/31)

##### 重複レコード処理結果

前号でもお知らせしました重複レコードの統合処理及び削除予定レコードの削除処理について、その後に行った件数について報告します。  
平成元年11月28日から平成2年3月29日までに各接続大学図書館から報告された重複レコードは報告書枚数にして140枚(重複件数と図書382、洋図書120、著者名典拠44)でした。  
当センターの調査分を含め、重複レコードの統合処理及び削除予定レコードの削除処理を行ったものは次のとおりです。  
(処理件数表省略)

なお、今回の重複レコード処理の過程において、次の点が気になりましたので、各担当者は注意をお願いします。

新旧字体の違いによる重複レコードの存在

新字体、旧字体で別々の書誌を作成している例が見受けられた。検索の際に新旧字体があり得ることを考慮して検索をするようお願いします。

監修者の表示位置の違いによる重複レコードの存在

総合目録データベース上のレコードの表現で、監修者が TR にあるか、NOTE にあるかの違いによって別書誌レコードが作成されている例がありました。監修者を責任表示に記録するかは、目録規則上でも変遷している上、1987年版も別として異なる扱いを準備していることもあって、記述位置の違いを生じておりますが、これをもって別書誌作成の根拠とすることはできません。

出版物物理単位毎に作成された重複レコード

最近、出版物物理単位を1つずつ書誌単位として作成するといふ誤った書誌作成方法を探っている方がいます。この重複レコードを処理する場合には、結局、各参加機関での所蔵レコードの付替え作業をすることになりますので、ご注意ください。

#### ニュースレター No.21 (1989/12/8)

##### 重複レコード処理結果

前号でもお知らせしました重複レコードの統合処理及び削除予定レコードの削除処理について、その後に行った件数について報告します。  
10月7日から11月27日までに各接続大学図書館から報告された重複レコードは報告書枚数にして55枚(重複件数と図書103、洋図書50、著者名典拠37)でした。  
当センターの調査分を含め、重複レコードの統合処理を行ったものは次のとおりです。  
(処理件数表省略)

#### ニュースレター No.20 (1989/10/16)

##### 重複レコード処理結果

前号でもお知らせしました重複レコードの統合処理及び削除予定レコードの削除処理について、その後に行った件数について報告します。  
7月22日から10月6日までに各接続大学図書館から報告された重複レコードは報告書枚数にして、51枚(重複件数と図書149、洋図書49、著者名典拠51)でした。  
当センターの調査分を含め、重複レコードの統合処理を行ったものは次のとおりです。  
(処理件数表省略)  
(上記の統合処理結果については、8月1日付で各機関へ「修正結果報告」として、お送りしている分に含まれています。)

#### ニュースレター No.19 (1989/7/28)

##### 目録システムに関する最近の質問書から

(2) 書誌レコードの修正のルールについて

Q:

書誌レコード修正の方法について明確なルールを定め、各参加機関に周知してほしい。

A:

書誌単位のとり方が異なる、データ自体に疑義がある等の場合には、各参加機関間で連絡した上で調整していただくことにしています。ですが、その調整の方法については各参加機関の良心に任せ、特にルールを定めたりはしませんでした。しかし、現実には調整の段階で種々の問題が生じているようですので、ここでルールを明確にすることにします。

上記のような書誌レコードを発見した場合には、発見した参加機関(以下、発見館)が書誌を作成した参加機関(以下、作成館)に連絡し、双方で見解を統一した上で作成館が書誌レコードを修正することとします。また、それに伴い所蔵レコードをつけかえなければならない場合には、作成館が責任を持って行うこととします。ここでいう作成館とは、所蔵レコードIDの最も小さい参加機関とします。

#### ニュースレター No.19 (1989/7/28)

##### 重複レコード処理結果について

前号でもお知らせしました重複レコードの統合処理及び削除予定レコードの削除処理について、その後に行った件数について報告します。  
5月7日から7月21日までに各接続大学図書館から報告された重複レコードは報告書件数にして、77件(重複件数と図書105件、洋図書53件、著者名典拠66件)でした。  
当センターの調査分を含め、重複レコードの統合処理を行ったものは次のとおりです。  
(処理件数表省略)  
(上記の統合処理結果については、7月7日付で各機関へ「修正結果報告」として、お送りしている分に含まれています。)

#### ニュースレター No.18 (1989/05/23)

##### 重複レコードの処理について

前号でもお知らせしました重複レコードの統合処理及び削除予定レコードの削除処理について、その後に行った件数について報告します。  
2月10日から5月6日までに各接続大学図書館から報告された重複レコードは報告書件数にして、111件(重複件数と図書263件、洋図書286件、著者名典拠109件)でした。  
そのうち、重複レコードの統合処理のできたものは次のとおりです。  
(処理件数表省略)  
(上記の結果については、5月10日付で各機関へ「修正結果報告」として、お送りしている分に含まれています。)

#### ニュースレター No.17 (1989/03/01)

##### 重複レコードの処理について

前号でもお知らせしました重複レコードの統合処理及び削除予定レコードの削除処理について、その後に行った件数について報告します。  
11月12日から2月9日までに各接続大学図書館から報告された重複レコードは報告書件数にして、136件(重複件数と図書358件、洋図書224件、著者名典拠38件)でした。  
そのうち、重複レコードの統合処理のできたものは以下のとおりです。  
(処理件数表省略)  
(上記の結果については、1月9日付で各機関へ「修正結果報告」として、お送りしている分に含まれています。)

なお、接続館側の閲覧目録用データベース(OPAC)等の修正を考慮し、今後の報告方式に関して、機械可読形式のもの等、文書形式以外の方式について目下検討しており、準備が整い次第お知らせいたします。

#### ニュースレター No.16 (1988/11/24)

##### 重複処理について

ニュースレター14号でもお知らせしました重複レコードの処理について、現在までの状況を報告します。  
11月11日現在で各接続大学図書館から報告された重複レコードは報告書件数にして、197件(重複件数と図書554件、洋図書212件、著者名典拠75件)となっています。また、これは別にセンターにおいて重複レコードを見つけるプログラムを使用して発見した重複と思われるレコードの件数が1,154件(内訳と図書575件、洋図書242件、著者名典拠337件)あります。これらについてセンター側で再度チェックを行い、重複レコードとして統合しなければならないものについて、数回に分けて統合作業を行いました。

#### データベース登録状況について (この回から登場?)

#### ニュースレター No.14 (1988/4/30)

##### 重複レコードの処理について

総合目録データベース中の重複レコードについては、以下の方法で処理することとしますので御協力をお願いします。

(1) 接続館側

重複レコードを発見した場合は、別紙「目録情報に関する質問書/回答書」に記入の上、重複と思われるレコードの画面コピーとその情報源のコピーを添えてセンターに報告して下さい。その際、どのレコードを採用したかを明記して下さい。  
目録登録時の重複レコードの採用基準

A 書誌レコードの場合

書誌レコードIDの最も古い(小さい)レコードを優先して選択して下さい。その際、レコードの修正を行った場合には、修正内容を添えてセンターに報告して下さい。ただし、書誌階層の変更を伴う修正については、p.217(5) 書誌単位のとり方が異なる場合等の目録登録について、に従って下さい。

イ 典拠レコードの場合

典拠レコードの場合も、原則として書誌レコードと同様の基準で運用します。ただし、典拠レコードの場合システムで HDNG フィールドの重複チェックを行っているため、新しい(大きい)ID のレコードが正しい標目になっている場合には、ID の最も古いレコードを正しく修正して採用するといふことが行えません。その場合には、レコード ID の新しいものを採用して良いこととします。

(2) センター側

削除レコードの確定

センター側では、ソフトウェア等により出力されたリストを点検して重複レコードの確定を行います。また、接続館側から重複レコードとして報告されたものも、センター側で再度点検します。その際、確定が困難な場合には、接続館側に再度情報源の送付を依頼することがあります。  
重複レコードと確定したものについては、レコードIDの新しいものを削除します。

レコードの削除

重複レコードの第1回目の削除は、昭和63年8月を予定しています。  
重複レコードの削除に伴って発生する所蔵レコードの付替、親書誌レコード及び典拠レコードとの新規リンクは全てセンター側で行います。

非削除レコードの修正

重複レコードの削除に伴い、採用したレコードに対して修正の必要が生じる場合があります。  
採用したレコードに対する修正作業については、当面センター側で行います。

削除レコードの報告

重複レコードの処理により削除されたレコードについては、センター側から、その新旧テーブルリストを各接続館に報告します。